



▶ヘムロ小屋39号
NASA[徳島]



▶ヘムロ小屋1号
香峰[徳島]



▶ヘムロ小屋 模型

いいと常々思っていた歌さん。

「大学を出てから30カ国以上を旅してみても、四国で千年以上続くお遍路とお接待は世界でも類のない祈りの形だと感じたんです。でも、お遍路さんが自由に休憩したり、寝泊まり出来たりする場所はほとんどない。だったら作ろうと」

今から約20年前、四国八十八カ所の霊場を巡礼する遍路道沿い全行程の4〜5キロごとにお遍路さんが休憩できる89棟の遍路小屋を設計・建設する計画を立てた。

「まずは車で4年かけて八十八カ所を回りました。ここに建てたい、と4〜5キロごとの場所を探し、決め、設計し、模型も造りました」

休憩所は、お遍路さんにも地元の人たちにも愛着を持ってもらえるような建物であるべきだと歌さんはいう。もちろん、遍路小屋はお接待のための手段として欠かせない。が、歌さんの思いはより広い世界を見据えての計画だったようで、かつてあるインタビューに「小屋が人と人との交流の場、地域の交流の場として生きればいい」と答えている。

とはいえ、建てる土地の権利の問題、資材の調達、できたあとの小屋の管理や手入れなど、ひとりではできることは限られている。

こうした計画を実現するために、より多くの人たちに計画を知ってもらう必要があった。そこで考えたのが『四国八十八ヶ所ヘムロ小屋構想展』と題した展覧会。

「徳島県内23カ所分のヘムロ小屋の10分の1の模型を作って

徳島県立近代美術館で展示会をしたところ、海陽町に住む野村カオリさんという人が、うちの土地を使ってください」と申し出てくれた」

そして2001年11月に完成したヘムロ小屋第1号。海陽町の香峰に建ち、いろり、流し、畳、トイレ、倉庫も設置されている。

歌さんに賛同して2006年には『四国八十八ヶ所ヘムロ小屋プロジェクト』が立ち上がった。四国4県の知事が顧問となり、数十人が発起人として名を連ねている。ボランティアで休憩や仮眠ができるヘムロ小屋を遍路道に89棟建てるという壮大な計画は現在も着々と進行中だ。

「小屋は、どこも同じではないです。その地域の風土や伝統文化、空海の思想などを活かし土地の風景になじみ、新しい風景のひとつになるようなデザインであるべきなので」

今や四国4県に55カ所にもなったさまざまな趣きのヘムロ小屋。

「地元の人たちから、うちの土地を使ってくださいとか、うちの山の木を切って使ってくださいという申し出も増えて、ずいぶん進みました」

が、どこもそうトントン拍子に計画が進むわけではない。地元の協力を得るまで時間がかかる場合もある。

「例えば眉山の麓での計画では、建設する広場の地目が道路ということと、難航したり、別の場所では、お遍路さんに寝られると景観を損ねるのではないかと、反対の声が上がったりましたこともあり。地域によって使える資金の額も違いますし、それぞれの範囲でできるものを造ります」

しかし、建設途中で頓挫した小屋もあるという。